

公の施設の指定管理者における業務状況評価

令和3年12月10日

施設名	歴史民俗資料館	所管課	文化スポーツ部文化振興課
-----	---------	-----	--------------

1 施設の概要

指定管理者名	(公財)高知県文化財団	指定期間	平成31年4月1日～令和6年3月31日
施設所在地	南国市岡豊町八幡1099-1		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・高知県の歴史、考古及び民俗(以下「歴史民俗等」という。)に関する資料の収集、保管及び展示 ・歴史民俗等に関する専門的な調査研究 ・歴史民俗等に関する講演会、講座、研究会等の教育普及活動 ・高知県における文化財の保存、活用の推進 ・上記のほか、歴史民俗資料館の設置の目的を達成するために必要な業務 		
施設内容	<p><建物> 延床面積4527.47㎡ RC造地上3階建 <土地> 124,520㎡ <主要施設> 常設展示室、企画展示室、体験学習室、多目的ホール、 収蔵庫、燻蒸室、研究室、会議室、資料室など <開館時間> 午前9時～午後5時 <休館日> 12月27日～1月1日 <主な料金> 通常展 一般470円 ※高校生以下、高知県長寿手帳(65歳以上)、身体障害者手帳、療育手帳、 精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳、 被爆者健康手帳を所持する者と介護又は介助者1名、高知市長寿手帳を所持する者は無料 施設利用料 企画展示室24,590円(1日) 多目的ホール15,700円</p>		
職員体制	常勤職員: 10人 契約職員: 11人 合計: 21人		

※職員数は令和2年4月1日現在

2 収支の状況

単位:千円

		令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(予算)
収入	県支出金	162,768	161,489	170,320
	事業収入	6,913	2,090	8,022
	その他	818	2,028	
	収入計(a)	170,499	165,607	178,342
支出	事業費	169,960	165,607	178,342
	(うち人件費)	(77,674)	(79,149)	(79,749)
	その他	539		
	支出計(b)	170,499	165,607	178,342
収支差額(a)-(b)		0	0	0

3 利用状況

		令和元年度(実績)	令和2年度(実績)	前年度比
① 年間利用者数 合計 (単位:人)	通常展	7,113人	通常展 2,960人	- 4,153人
	企画展	22,209人	企画展 2,404人	- 19,805人
	合計	29,322人	合計 5,364人	- 23,958人
	<利用実績> 吊り天井改修工事、コロナウイルス感染症の影響や感染拡大防止のための休館などもあり、 観覧者目標を下回った(観覧者目標:17,000人、達成率:約31.6%)。			

<p>② 利用者意見等の反映</p>	<p>○ 利用者アンケート等の実施状況(時期・方法・回答数・調査結果等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時期:年間 ・ 方法:アンケート用紙を受付及び展示室入口に配置 ・ 回答数:95%が「大変満足」または「良かった」の回答 (令和2年4月1日から9月6日までの集計結果から) ・ 調査結果公表:『令和2年度高知県立歴史民俗資料館年報』において公表
	<p>○ 利用者意見等を踏まえた対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 駐車場前の案内図が古くなり不鮮明 → 新規に改修 ② 授乳室が狭く使いにくい → 室内設備のレイアウト変更を含め改修した。
	<p>○ その他</p>
<p>③ その他特記事項</p>	

郷土の歴史や文化を後世に引き継ぐとともに、地域への理解と関心を深める

要求水準－収集・保存

収集方針に基づき、高知県の歴史、考古、民俗の各分野の資料を収集し、適切に保存する

評価項目

- (1) 本県の歴史や文化を後世に伝えるうえで必要な資料を収集する
- (2) 資料の整理・分類、点検・劣化防止等の処置を適切に行う

状況説明

高知県西南部をフィールドとしていた在考古学者の資料群、江戸時代の絵図、学校資料、陸軍軍医関係資料、恵日寺仏像を寄贈や寄託として受け入れた。また、オリンピック関係資料や高知県の絵はがきを購入し、資料の収集に努めた。

<寄贈資料>

考古資料

・昭和48年から平成15年にかけて故木村剛朗氏が撮影したモノクロフィルムほか県西南部の旧石器時代から縄文時代の遺跡・遺物を主体とし撮影したフィルム等で、平成20年度に受け入れた考古資料群を補うものである。

歴史資料

・御国絵図

村名・陸路・海路・関所・里程・港などが詳細に記された土佐国絵図。

嘉永7年(1854)8月に井沢(現四万十市力)の改所(あらためしよ)において島崎直光が写したとの記述があり、江戸時代末に作成された写本として大変稀少である。

<寄託資料>

歴史資料

①「南国市立北陵中学校所蔵資料」

幕末から明治にかけての古文書。新型コロナウイルス感染拡大防止による臨時休校中に学校の資料を整理中に発見された。岡豊町周辺の地域に関する歴史や高知県の教育史に関する大変貴重な資料群といえる。

②「軍医吉本其葉関係資料」

高知県出身の陸軍軍医として日清・日露戦争に従軍した吉本其葉とその子息等に関する資料。親族が家の整理中に発見した。明治期の軍医に関する資料が多数あり、高知県出身の軍医や軍人の足跡を知ることができる大変貴重な資料といえる。

<美術工芸>

恵日寺(香南市)が寺堂改修のため、木造十一面観音立像・木造大日如来坐像(金剛界)・木造大日如来坐像(胎藏界)(共に重要文化財)の計3軀を、工事中の盗難防止と毀損を避けるため文化財保護の観点から文化庁及び県教育委員会の指示により一時寄託として受け入れた。

<購入資料>

歴史資料

①『HANDBALL』

1940年オリンピック東京大会ハンドボール競技の大会規則。ハンドボール競技は、1936年ベルリン大会において正式競技から外れていたが、1940年東京大会においてハンドボール競技の実施が決定したことを示す貴重な資料で令和3年度の企画展で公開を予定。

②『絵葉書』

昭和初期の高知県の名所や旧跡、人物に関する絵葉書で、当時の本県の様子をうかがうことができるものである。

9月からの吊り天井改修工事による休館期間も利用し、各分野において資料の整理・記録や点検・劣化防止等を継続して進めた。

<保存処理修復>

・展示公開のため、古文書資料のクリーニング・表装を実施

- ・刀剣は、学芸員1名が継続的に手入れを実施。また、1振を委託して研磨を実施
- ・西畑人形 40 頭のうち2頭についてカビ取り等の保存修理を実施
- ・民俗写真資料の白黒フィルムについてカビ取り等の保存処理を 150 本実施
- ・登録文化財旧味元家住宅主屋について、茅屋根修繕を計4回実施

<複製品の製作>

- ・南国市の盆棚の模型を製作

<展示保存環境>

- ・展示室の照明(LED・無紫外線蛍光灯)やケース(エアタイトケース・ノンエアタイトケース)は、展示の方法や指定物件等重要資料の展示の有無など、状況によって使い分けている。展示環境においては、職員が日々記録計を目視で確認しながら、夏季は温度 24.5 度・湿度 55%、冬季は温度 24 度・湿度 55% の保存環境維持に努めた。
- ・収蔵庫資料(作品)は資料に応じた温湿度で管理し、収蔵庫の温度は 20~22 度、湿度 55%、24 時間空調で管理した。
- ・新資料搬入時は、他の資料に虫害やカビが発生しないように文化財用の燻蒸ガスを用い、環境に配慮して燻蒸を実施した。(4回実施)
- ・館内 39 箇所に虫害トラップを設置(4回)し、文化財害虫等の状況を把握するとともに、捕獲した害虫の分析を業者へ委託(4回)した。
- ・文化庁の指導により展示ケース内の文化財への影響のあるガス(有機酸・アンモニア)対策として、空気環境調査を委託し、結果に基づいてガス濃度を基準値に下げたため工事終了後、換気や一部ガス吸着シートの設置などを行った。さらに、独立ケースと展示台については、9月から3月まで換気を毎日実施し、濃度を下げた。

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の収集については、企画展に関係するものや本県に関する貴重なもの等、後世に引継ぐべき文化財を保護・保存するなど、意欲的な取組が認められる。 ・展示・収蔵環境については、公開承認施設として適正な管理を行っており、資料の維持管理に努めたと認められる。

(ご意見等)

要求水準－調査・研究

高知県の歴史、考古、民俗の各分野の調査研究を進め、その成果を公開する

評価項目

- (1) 職員の専門性の向上を図るとともに、収蔵資料の調査研究や、各分野の中から題材を絞り、テーマ性を持った調査研究を進め、その成果を、展示や研究紀要などを通じて広く公開する
- (2) 長宗我部氏関係の資料の研究を進め、展示などを通じて広く公開する

状況説明

<考古>

足摺岬の弘法大師御遺跡について調査、その過程で江戸時代の経塚を発見し、その成果について『岡豊風日』第109号や『へんろ』第441号で公表し、企画展で成果を公開した。また、金剛福寺の二十八部衆立像の調査成果と仏具の調査成果を検討し、13～14世紀に金剛福寺が回録(火事)にあい、復興するため勧進が行われ、その信仰の証として仏具を製作し、伽藍を復興していったことを美術工芸品から初めて明らかにした。企画展「補陀洛東門開く 蹉跎山金剛福寺」で成果を公開した。

また、香南市恵日寺所蔵の仏像(国指定重要文化財)の保存環境調査や大豊町教育委員会から依頼のあった寺院の仏像の保存状況の調査を行い、協力できた。

受贈の故木村剛朗氏撮影のフィルムの撮影場所の特定を一部行った。

<歴史>

- ・館蔵する長宗我部関係資料の再調査を行い、その成果を図録『史料で読み解く長宗我部』で公表した。

- ・館蔵する土佐藩関係の資料の再調査を行い、その成果を『研究紀要』で公表した。

<民俗>

県教育委員会文化財課の高知県民俗芸能緊急調査に協力して調査を進め、その成果を令和3年度に報告書として公開する準備を行った。

<美術工芸>

土佐清水市金剛福寺所蔵作品の修復に係る調査を継続して行い、考古分野と連携し企画展「補陀洛東門開く 蹉跎山金剛福寺」で成果を公開した。また、香南市恵日寺所蔵の仏像(国指定重要文化財)の調査や大豊町教育委員会から相談のあった仏像の調査に対応し、保存や環境調査などに協力できた。

<考古>

NHK大河ドラマ特別展「麒麟がくる」への岡豊城跡出土資料の貸出協力を行った。岡豊城跡の北東部に存在したと思われる曲輪や堀切の痕跡の調査を継続して行い、今後の岡豊城跡のコーナーで取り上げる。

<歴史>

- ・長宗我部氏研究の第一人者である高知大学津野教授の監修によって図録『史料で読み解く長宗我部』を作成し、長宗我部氏に関係する最新の研究成果を発信した。

- ・NHK大河ドラマ特別展「麒麟がくる」へ「絹本着色長宗我部元親像」などの長宗我部氏関係資料の貸出協力を行った。

- ・長宗我部氏に関する企画展の開催に向け、県外の実施設において資料調査を行い、情報収集を行った

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・多岐に渡る分野の資料について調査研究を積極的に実施し、成果を発表していることが評価できる。 ・高知大学監修のもと、館所蔵の長宗我部氏に関わる資料の再調査を行い、長宗我部展示室にある資料の解説本にもなる図録を刊行するなど、長宗我部に関心を高めた活動を行ったことが認められる。 ・県や市町村と連携して、資料の調査や保存に貢献したことが評価できる。

(ご意見等)

要求水準－展示・公開

これまでの歴史の積み重ねのうえに現在の高知県があることを伝え、県民の郷土への誇りと愛着を育む

評価項目

- (1) 公開承認施設として、貴重な資料の公開など魅力ある企画展示を行い、5年間で13万5千人以上の観覧者を目指す
- (2) 来館者一人ひとりの疑問に答えるレファレンスサービスや展示解説など、郷土の歴史や文化への理解を深めるためのサービスを充実させる

状況説明

新型コロナウイルス感染防止にかかる休館(4/10～5/10)の影響により企画展に関連した講演会(2回)は中止となり、講座・ミュージアムトーク(3回のうち2回は中止)は感染防止対策を行ったうえで実施した。国や日博協のガイドラインに沿って事前予約あるいは入館時の感染防止対策を徹底して行うことで、来館者に安心して参加してもらうことができた。この企画展では、県指定文化財の本尊の脇侍、二十八部衆立像の32軀と中世の仏具などを公開した。

また、当初予定になかったコーナー展を急遽計画・開催し、時事に即した展示公開を行うことができた。

<令和2年度企画展入館者実績>

「補陀洛東門開く 蹉跎山金剛福寺」 5/11～7/19 69日間 2,404人

「土佐人 山本忠興と近代オリンピック」 ※令和3年 7/16～9/5 へ延期

<令和2年度コーナー展>

「疫病退散」 7/4～9/6 65日間 2,824人

<令和2年度通常展入館者実績>

入館者数 58日間 2,960人 (P.2 イ(ア)企画展 (イ)通常展示)

外部からの資料等に関する調査・研究等への依頼や問合せに対して、学芸員が電話や対面により対応するほか、解説補助員が受付や展示室で質問や問合せを受ける場合がある。特に専門的な質問などに対しては学芸員が対応している。令和2年度はのべ144件106時間30分にのぼり、昨年度より48件増となっている。また、研究者や学生に対する資料調査対応は、計11件32時間20分であった。企画展等の展示解説は次のとおりである。

<企画展関連企画ミュージアムトーク>

「補陀洛東門開く 蹉跎山金剛福寺」 1回 計45人(予定していた3回のうち

2回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)

「疫病退散」 1回 計4人

計2回 49人

その他、団体などの予約による展示解説については、要望に応じて解説員、学芸員が対応しているが、令和2年度は少人数への対応が多数で、28件対応した。

また、令和2年度からの取り組みとして、スマートフォンで展示解説を聴くことのできるアプリ「ポケット学芸員」のシステムを利用し、岡豊城跡、山村民家、常設展示の一部のコンテンツ計25件を公開した。

(P.3 ウ(イ)ミュージアムトーク)

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響を受けながらも、感染防止対策の徹底のうえ、企画展を開催し、来館者の意見を取り入れながら展示を変更したことや、時世に併せてコーナー展を急遽行うなど、努力や工夫認められる。 ・県立の歴史系総合博物館として、様々なレファレンスや調査要請に対し丁寧に対応しており、昨年度よりも件数を伸ばしている。 ・企画展時にミュージアムトークを開催しており、観覧者の理解を深める取組を充実させている。 ・今年度から「ポケット学芸員」を導入し、来館しなくても展示資料に触れられるようにするなど、広く資料を知ってもらう工夫がなされている。

(ご意見等)

- ・コロナ禍のような事態への対応の仕方を蓄積して行ってほしい。
- ・音声や文字による展示物の補填があれば、展示の面白さが広がる。展示を更に楽しめるよう、動画を流すなどの検討をしてはどうか。

評価項目

- (1) 学校との連携による出前授業や校外学習などに計画的に取り組み、子どもたちの歴史や文化に触れる機会を充実させる
- (2) 県民が郷土の歴史や文化に親しむことができる講演会や講座などを開催する

状況説明

企画展やコーナー展で取り上げた土佐の歴史などに関心をもってもらうため、大人から子どもまで参加できるよう、新型コロナウイルス感染防止対策を十分に行いながら、屋外での体験活動を中心に多様なプログラムを実施した。

<教育プログラム(ワクワクワーク)の実績> 計 24 人

「仏像の切り絵」体験 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

「土佐和紙漆喰張り子 丑の絵付」参加者 17 人

「障子はり」参加者 7人

(P.3 ウ(エ)ワクワクワークなど(展覧会関連企画含む))

<学校等教育関係の取組>

・体験学習:火おこし、昔あそび(1校 18人)

・学校授業と連携したポイント解説(1校 5人)

(来館学校等実数計 1校 23人 ※引率者を含む)

・旧大柝高校民具見学:2校

・出張派遣授業:5件 213人(大学の授業を含む)

・職場体験学習(申込みがあったが新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止:4校)

・学校教育活動支援事業:1件 馬路村立魚梁瀬小学校 18人 ※教員8人

・大学との連携:博物館実習1校(1人)を7日間受け入れた。

・高知大学で「日本文化史Ⅱ」の講義を行った(受講生 73人)

・こうちミュージアムネットワーク参加館として、高知県教育委員会事業と連携し、小中学生向けの動画「国史跡・岡豊城跡 探検!」を制作し、WEB公開を行った。(1件)

(P.4 エ(ア)学校来館対応 (イ)出張派遣授業 (エ)博物館実習の受け入れ)

新型コロナウイルス感染防止にかかる休館(4/10～5/10)と当初から予定していた吊り天井改修工事(9/7から)のため、企画展開催が1回となるなど、計画の大幅な変更を余儀なくされたため、関連する企画も限定的な開催となった。(「※」は新型コロナウイルス感染拡大防止及びその対策のため中止)

<講演会・講座>

○講演会

企画展「補陀洛東門開く 蹉跎山金剛福寺」

金剛福寺住職 長崎勝教氏「蹉跎山金剛福寺」※

(公財)中村元東方研究所 専任研究員 田中公明氏「二十八部衆の起源」※

○講座

企画展「補陀洛東門開く 蹉跎山金剛福寺」

副館長 岡本桂典「仏教考古学講座1お経のタイムカプセル-経塚-」36人

同上 「仏教考古学講座2お経のタイムカプセル-土佐の経塚-」54人

(P.3 ウ(ア)講演会・講座)

<職員の派遣>

土佐観光ボランティア協会、高知県立文学館へ講師として派遣

<子どもたち等に来館してもらう取組>

・ワクワクワーク(子ども歴史教室)の開催 (再掲:24人)
(P.3 ウ(エ)ワクワクワークなど(展覧会関連企画含む))

・季節のイベント開催

れきみんの日 ※(休館中)

れきみん! サマーミュージアム(ワークショップ、ミュージアムトーク、高知東工業高校モノ作り体験、
「教えて!学芸員」、姫魚・赤べこってなんだ?、クイズに挑戦!など)

23日間(8/1~8/23;スペシャルプログラム day 8/8,8/16) 1,574人

れきみんのお正月 ※

(P.5 キその他普及事業)

評価	理由
B	(吊り天井工事による休館や新型コロナウイルスの影響もあったが) ・企画展関連の教育プログラムの実施や、体験学習、出張授業等を毎年継続して開催することにより、子どもたちが歴史や文化に触れる機会を充実させていることが認められる。 ・季節のイベントや、楽しみながら歴史を学べる様々なワークショップを開催しており、館の創意工夫が評価できる。

(ご意見等)

評価項目

本県の歴史や文化に関する戦略的な情報発信により、県内外に館の魅力を広める

状況説明

(1)紙媒体・マスコミ・インターネットを通じた広報

- ・企画展のポスター・チラシを県内の学校・コンビニや県内外の博物館等へ幅広く送付した。
- ・館のリーフレットや『年間カレンダー』を観光案内所、旅館・ホテルなどへ配布し、県内外の観光客の目にも触れるようにした。
- ・新聞やテレビ等のマスコミのほか、ホームページ(HP)、ツイッター、Facebook などインターネットの活用も随時行った。
(年間の館 HP アクセス数:32,380 件)
- ・県や南国市の広報誌のほか、『ほっとこうち』、『日本歴史』など情報誌や歴史系の雑誌にも掲載し、広報強化に努めた。
- ・企画展開催前には報道機関に情報提供し、企画展の取材につなげた。

(2)イベント等における広報活動

- ・オリジナルカレンダー作成と組み合わせた岡豊山フォトコンテストを継続実施し、岡豊山への来園を促すとともに、応募作品は広報素材として活用した。
- ・企画展や各種イベントの開催前・会期中を中心に SNS による情報発信を継続的に実施した。
- ・イベントのチラシを館で作成・印刷し、南国市内及び高知市(一部)の小学校へ配布し、親子での来館を促すよう工夫した。

(3)広報プロジェクトチームによる広報内容等の検討と実施

- ・広報の形態や時期、発信先など、より効果的な情報発信の在り方について検討・協議を適宜行うことができた。
- ・「ポスター貼ります隊」(登録者9名)は継続登録者を中心に、各地で県民密着・参加型の広報活動を継続した。

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞特集記事や広告の掲載を実施し、積極的な情報発信により、県内外に館の魅力を広めていると評価できる。 ・年間を通じて、地域のコンビニの協力を得て、チラシ等を常時配置している。 ・広報プロジェクトチームの設置や「ポスター貼ります隊」の活動などを今後も継続し、周知していくなど、観覧者増に向けた今後の取組みに期待する。

(ご意見等)

- ・広報も相手に届かなければ意味がない。どう発信していくか、ネットワークサービスをどう活用していくかが大事。
- ・展示の準備中の動画を挙げるのも良いのではないかと。アクセスが増えれば集客に繋がる。
- ・来館者の居住地や来館目的の把握は、県外への広報の検討に繋がる。(旅行会社との)商談にもその情報を活用できる。

評価項目

- (1) 県内外の他の博物館等と連携した事業の充実により、県民サービスの向上を図る
- (2) 岡豊山周辺を歴史的な好奇心を高めるゾーンとして位置づけ、関係機関と連携した取り組みを通じて地域の活性化に貢献する

状況説明

- (1) 企画展の開催にあたり、独立行政法人国立文化財機構文化財活用センターの事業「東京国立博物館収蔵品貸与促進事業」を活用し、作品の画像データ提供を受け展示内容の充実を図った。(作品の借用は、新型コロナウイルス感染症拡大により県境を越えた往来自粛となったため中止とした。)
- (2) こうちミュージアムネットワークと協力し、高知県教育委員会による「志・とさ学びの日」の関連企画として、来館しなくても博物館の作成した動画を見ることができる「インターネットミュージアム(こうちミュージアムネットワーク・教育政策課)」を立ち上げた。当館でも館と岡豊山の概要を解説する動画を1本制作し、配信につなげた。
- (3) こうちミュージアムネットワークにおいて、新型コロナウイルス感染拡大に伴い外出を控える家庭などで資料の廃棄が進むことから、捨てる前にネットワークに連絡してもらい旨の文書を配布し情報発信することで、資料の調査及び受託につなげることができた。
- (4) 日本経営協会主催の「自治体職員のための契約事務入門」に自主企画研修として参加し、得られたスキルを館の契約事務に還元し、確実かつ円滑に業務を遂行した。
- (5) その他、県内博物館、県市町村教育委員会、県民グループ等と調査研究、資料保存、館内イベントなど様々な場面で情報交換・協力し、県民サービスの向上に努めた。
- (6) 長宗我部氏、国史跡・岡豊城跡の文化資源の活用
- ・吊り天井改修工事による休館期間中に、敷地公園内の登録有形文化財旧味元家住宅主屋(山村民家)に職員が常駐し、来園者への案内やサービス提供に努めたほか、「岡豊城をめぐる 土佐の七雄スタンプラリー」を実施するなど、県内外からの来園者が史跡を楽しんで散策できるよう取り組んだ。
 - (P.6 ク吊り天井改修工事による休館中の岡豊山活用対応)
- (2) 国史跡・岡豊城跡を活かした地域住民との連携
- ・当館を拠点に岡豊城跡や周辺の史跡をめぐる「土佐のまほろばウォーク『れきみん』とまほろばクエスト」は、土佐のまほろば地区振興協議会のガイドに担当してもらい、実施した。8回予定のうち5回の実施となったが、計 105 人の参加があった。
 - ・長宗我部フェス実行委員会、南国市観光協会の主催((株)カプコン協力)により、南国市等を周遊するスタンプラリー「長宗我部 RALLY 10th」を開催した。新型コロナウイルス感染防止のためスタンプ押印箇所を6ヶ所に絞ったが、特別企画や高知県立埋蔵文化財センターで 10 周年記念のポスター展を開催し 193 人の参加があった。
 - (P.5 カ地域との連携イベント)

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の博物館等の資料調査、展示、保存等への協力・連携に努めたことが認められるとともに、こうちミュージアムネットワークと協力し貴重な資料の廃棄を未然に防ぐための情報発信を行ったことも評価できる。 ・土佐のまほろば地区振興協議会等とともに、地域に根付いた活動を実施することを通して、長宗我部氏を含めた岡豊山全体の魅力を発信したことが評価できる。 ・新型コロナウイルスの影響を受けるなか、様々な団体・企業と連携し、工夫をしながら「長宗我部 RALLY 10th」等を実施したことは評価できる。

(ご意見等)

- ・岡豊山歴史公園についても、もっと広報や発信の方法に工夫が出来るのではないか。

要求水準－施設管理

施設及び設備の適切な保守管理をとおりて、故障や事故のない運営を行う

評価項目		
(1)適切な管理運営の確保	社会的責任	・法令等の遵守 ・個人情報、情報公開の状況
	建物や設備の管理	・点検、修繕の実績 ・業務委託の状況
	危機管理	・風水害、火災、地震、盗難等危機管理対策 ・マニュアルの作成 ・職員研修

状況説明
<p><社会的責任></p> <ul style="list-style-type: none"> ・就業時刻の遵守、時間外勤務事前命令の徹底、時間外を行った場合の速やかな報告などについて職員に周知し、業務日誌、受付業務日誌への各人の勤務時間の記載など、適正な労働時間管理に努めた。 ・通勤などで使用する自家用車、公用車の運転における法規の遵守を徹底した。 ・個人情報管理は、(公財)高知県文化財団の個人情報保護規定により適正に運用した。 ・資料借用や預かりの際の相手方との書類のやり取りを適正に行うよう、学芸員を指導した。 <p><建物や設備の管理></p> <p>(点検・修繕)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・点検作業の結果、以下の修繕を実施した。 ①消防設備(誘導灯本体・消火器取替修繕)②空調設備(外気ダンパ及び中性能フィルター取替)③第1受水槽定水位弁本体交換④公用車ダイナモ(発電機)交換、点検・整備 <p>(業務委託)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示室内の空調等の機械設備は業者委託し毎日点検。故障時は職員も立ち会い、機器の状態を情報共有し、修理を検討した。なお、高温時は除湿機を稼働し展示室内の湿度調整を実施した。 ・館内外の清掃は業者に委託し清掃を実施。特にトイレ清掃では、委託業者により花やトイレトーパーを入口に設置。閉館時には解説員・警備員がトイレなどを巡回し、状況確認を実施した。 ・館内外警備は24時間警備を委託し、夜間機械警備も併用した。毎朝警備報告を確認し、夜間異常がある場合は職員と連絡がとれる体制を組んだ。大雨時や震度3以上の揺れが確認された時は、夜間でも特別巡回を指示した。 ・3階展示ケースに隣接した雨水管から雨漏りがあり、ケースにカビが発生したが文化庁や県と協議を進め、速やかに修理対応し、ケース自体も解体し、漏水を止め修復した。 <p><危機管理></p> <ul style="list-style-type: none"> ・警備員や空調委託業者と自衛消防団を組織。風水害等の配備基準及び職員体制を定め、大雨などに対応した。台風時は委託業者や職員による点検を実施。火災・地震に関しては、年1回消防署の立ち会いのもと避難訓練・消防訓練を実施。年2回職員による消防点検も実施。盗難等危機管理対策として、エントランス・展示室内にカメラを設置し、警備室・総務事業課で監視できる体制をとっている。防災関係のマニュアル及び緊急連絡先一覧(業者含)を作成し配置。県内で唯一燻蒸庫をもつ博物館であるため燻蒸機器の定期点検を実施した。

評価	理由
B	・日頃から危機管理意識を十分に持ち、非常時に速やかな対応がとれる体制を構築している。

(ご意見等)

評価項目	
(2) 利用者サービスの維持向上	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の意見の反映 自己点検、評価の状況 ・事故、クレームへの対応 ・職員の専門性の向上 ・研修の実施状況 ・その他サービス向上の取り組み

状況説明
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため来館者アンケートは可能な範囲で実施し、その内容を職員間で情報共有し、必要に応じて業務改善に生かした。 ・アンケートや電話等によりいただいた声には可能な限り対応するように努めた。 <p>利用者の意見の反映例</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 駐車場前の案内図が古くなり不鮮明 → 新規に改修 ② 授乳室が狭く使いにくい → 室内設備のレイアウト変更を含め改修した。 <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートでは、館の感想として95%の方から「大変満足」または「良かった」の回答をいただいている。(令和2年4月1日から9月6日までの集計結果から) ・職員は研修に参加し、専門性の向上及びスキルアップに努めている。本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から研修の多くが中止またはオンラインでの実施となった。また、県内外の各施設等へ出向くことが困難だったため、学芸員による資料の調査・研究は限定的なものとなった。 <p>研修の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 高知県が文化庁と共催で開催するセミナー ② こうちミュージアムネットワークが高知県の協力を得て開催する自主研修会 ③ 職員による自主企画研修 <ul style="list-style-type: none"> ・休館中(9/7～R3.4/28)も岡豊山歴史公園は開園中であることを広報し、公園内の登録有形文化財旧味元家住宅主屋(山村民家)に職員を配置し、インフォメーション機能をもたせ、続100名城スタンプ対応やグッズの一部販売も行った。また、岡豊城跡をめぐる「土佐の七雄スタンプラリー」の開催にあたり、城跡内のスタンプは、毎日点検・消毒を行い、説明パネルの清掃にも努めた。また、御城印ファイルの販売を令和3年3月1日から開始した。 ・岡豊山歴史公園内の石垣が崩れているのを警備員が巡回時に発見し、職員と共有した後、管理主体の南国市と連絡をとり安全対策をした。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス向上に向け、利用者からの要望・意見に迅速に対応していることが評価できる。 ・休館中も岡豊山歴史公園の広報を行い、山村民家で誘客のための企画を行うなど、岡豊山歴史公園の管理者としての責務を果たしていることが評価できる。 ・昨年度結成した「お客様改善要望対応PT」が、来館者の要望に応じて、サービスの充実を図る取組を継続して行っている。

(ご意見等)

評価項目		
(3)利用実績	利用実績の状況	・利用状況の分析

状況説明
<ul style="list-style-type: none"> ・吊り天井改修工事(当初:令和2年9月7日～令和3年2月28日。工期変更のため4月28日まで延長)が計画されていたこともあり、観覧者目標17,000人に対し、企画展1回・コーナー展等1回を開催し、5,364人と約32%の達成となった。新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館(4月10日～5月10日)となったことも影響している。 ・岡豊山歴史公園(国史跡・岡豊城跡)への来園者は目標25,000人に対し8,567人で、約34%の達成となった。 ・学校のバスでの来館は予定されていたものがキャンセルになるなど、実績がなかった。ただし、休館中における個人での来訪者の出身地をみると43都道府県にわたり、ほぼ全国各地から来ていただくことができた。(全体に占める県外者の割合:25%) ・共催事業、学校や地域等の団体による施設の利用 登録有形文化財旧味元家住宅主屋(山村民家):3件 多目的ホール:7件 フリースペース:2件 ・学校単位での来館数は1校23人であり、学校教育活動支援事業(バス借上費補助)の対象でもあった。(前年度から予約のあった学校は全てキャンセルとなった。)

評価	理由
B	・観覧者数については、吊り天井改修工事にかかる休館時期が長かったため、下回ったものの、岡豊山歴史公園でのイベント開催等、来場者増に向けての館の意欲が認められる。

(ご意見等)

評価項目		
(4)収支の状況	経営努力	・収入増加の取り組み ・経費削減の取り組み

状況説明
<p>事業計画の変更もあり事業収入は予算額を下回ったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の休館について観覧料等の補填も受け、支出も抑制することで収支が成り立った。</p> <p><収入増加の取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・休館期間の延長により企画展を減じたため、観覧料収入は 1,037 千円となったが、コーナー展「疫病退散」を急遽企画・開催し来館促進を図った。 ・休館中の民家でのグッズ販売や通信販売に力を入れ、また新たなオリジナルグッズの作成や長宗我部氏の図録刊行など、販売収入の確保に取り組んだ。 ・日本芸術文化振興会(1,077 千円)、文化庁(951 千円)から助成を受け、外部資金の調達に努めた。 <p><経費削減の取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設管理費のうち特に電気料については、こまめな消灯等を継続しつつ、工事休館中の照明・空調運転についても適宜確認を行い、使用量削減を図った。 ・消耗品等は在庫品を整理することで過剰発注を防ぎ、グリーン購入法に配慮しつつ価格を比較するなど経費節減に取り組んだ。

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・新たにコーナー展を企画することや、休館中も山村民家でグッズ販売を行うなど、収入確保のための努力が認められる。 ・経費削減やグッズ等の販売への工夫が認められる。

(ご意見等)

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・吊り天井工事の工期延長にかかる休館延長や新型コロナウイルスの影響による事業計画の変更はあったが、企画展で四国遍路に関する調査研究を披露し、予定になかったコーナー展を急遽行うなど観覧者確保のための努力が見られた。 ・休館期間中も、岡豊山歴史公園において、スタンプラリーやイベントを開催したり、山村民家に案内窓口を置き、グッズ販売等も行うことで、岡豊山歴史公園の情報発信とともに活用を図っており、地域活性化や館の存在を周知することに貢献できている。 ・教育普及関係では、従来のワクワクワークや職場体験などに加え、新たに学校教育への支援として小中学生向けの動画の制作・公開や、スマートフォンで展示の解説が見られるアプリ「ポケット学芸員」による資料公開を行うなど、児童や生徒に歴史の重要性を伝えるとともに継続的な事業展開ができている。 ・民間企業や地域の関係団体と良好な関係を築き、行事やイベントを開催しており、地域活性化への貢献が認められる。 ・「お客様改善要望対応PT」により、来館者の要望に応じる体制を構築することで、サービスの充実を図る取組を行っている。 <p>以上のことから、概ね要求水準を満たし、適正に管理運営・事業の遂行がされたと認められる。</p>

(ご意見等)

評価基準

- 「A」 要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされた。
- 「B」 概ね要求水準どおりであり、適正な管理運営・事業の遂行がされた。
- 「C」 要求水準に達しない面があり、改善のための工夫や努力が必要。
- 「D」 管理運営・事業の遂行が適正に行われたとはいえ、大いに改善を要する。